

池亀酒造

筑後川の土手を 30 年以上も小柳記念病院に通っている。その眺めには自然の恐ろしさにも美しさにも満ちあふれている。鰻屋や作り酒屋が数多く点在している。下流にはエツ料理屋も見られる。なかなか立ち寄ることはなかったが、新型コロナウイルス感染症でアルコール消毒液が品薄となったために酒造所で作り出したと報道されていた。

池亀酒造は明治八年来の老舗である。名前を覚えているのは何度もその前を通ったからか、残念ながらそれと思って飲んだことはなかった。30 年の 50 週としても片道で 1500 回はその前を通っている。5 月 20 日の朝にアルコール消毒液を売っているとの看板を立てているのを目にした。出張先から大学の帰りに寄ったのには理由がある。病院で使うアルコールを優先するために学校で使う分が不足するかもしれないと思ったからだ。社長さんが出てこられ、久留米大学医学部で使うのであれば準備しましょうと請け負っていただいた。

さて、社長さん、今飲み頃のお酒はありますか？と。手にとって出されたのは桜の絵柄がかわいい春の酒、楽しみにして帰って飲んでみる。純米酒でほのかな甘みとさらりとしたやさしい口触りだった。もちろん大吟醸などの高価なお酒までそろっているの、徐々に飲み進めてみようと思っている。

とここで終われば良いのだろうが、次の週にも寄ってみた。すると今度は金魚の絵柄の夏の酒、さらさらっと喉に入り酒の香りが追いかけてくる。次週は行かないぞと今は思っている。

筑後川の土手から、背振山脈を望む一枚をつける。

